

# 学術会議「改正」法案断念を

幹事会が文書「独立性損なう」

## 内閣府説明受け

政府が今国会で日本学術会議法の改悪を狙っている問題で、内閣府からの法案の検討状況の説明を受けた学術会議の幹事会は22日、懸念がより深まったとして、政府に今国会での法案提出を断念するよう、その意見を「尊重	う求める文書を公表しました。
内閣府が16日と同会議の臨時幹事会で説明した法案の概要では、学術会議は会員選考に際しあらかじめ、会員・連携会員以外のメンバーで構成される「選	しなければならない」としていきます。
議の幹事会は22日、懸念がより深まったとして、政府に今国会での法案提出を断念するよう、その意見を「尊重	しおられました。
	内閣府が16日と同会議の臨時幹事会で説明した法案の概要では、学術会議は改めて文書で、同会議の自由な活動を制約する権限をもつ委員会を設けることなどが、本の学術体制のあり方を議論するべきだと主張し、このまま「法改正」が強行されれば、当化する懸念があると指摘しています。

な既成事実を積み重ねるためだけに幹事会等での『説明』を行うといつのであれば、いたずらに回を重ねることに意味があるとは思われない」と批判。今国会への法案提出を断念して、アカデミアなど多様な関係者が交えた協議の場を設け、広く日本学術体制のあり方を議論するべきだと主張し、このまま「法改正」が強行されれば、「日本の学術の『終わりの始まり』となりかねない」と強い憂慮を表明しています。